

泉大津市社会教育委員会議

■令和7年度第1回会議の議事概要

日 時：令和7年6月2日（月）午後1時30分～3時

場 所：泉大津市役所 3階大会議室

出 席：岡崎委員、井上委員、富山委員、木野委員、祐仙委員、楠本委員

オンライン：杉山委員

公開の有無：公開

傍 聴 者：なし

議 題

1. 議長・副議長の選出について
2. 社会教育関係団体補助金について

報 告

- ① 社会教育委員会議等令和6年度実施報告
- ② 社会教育委員会議等令和7年度実施予定
- ③ 社会教育事業の概要
- ④ 社会教育事業の予算

その他

- ① 社会教育関係組織及び担当者一覧

議事概要

議題

1. 議長・副議長の選出について

- ・社会教育委員会議規則第2条の規定に基づき、社会教育委員互選の結果、議長に岡崎委員、副議長に木野委員が選出された。

2. 社会教育関係団体補助金について

《主な意見等の内容》

富山先生：補助金額は昨年度と変わらないのか。団体への補助ではなく、団体が実施する事業への補助へ移行する取り組みが進んでいると認識しているが、そのためには事業内容を精査する必要があると考える。次年度以降、思い切って切り替える計画なのか。

事 務 局：現状では、申請時と実施報告時に書面を提出してもらい、ヒアリングを実施している。これにより団体の活動内容を把握し、地域貢献に対する意識づけ

を行っており、今後さらに踏み込んだ対応を検討していく。補助金額については、昨年度より8万円増額となっている。これはスポーツ協会に加盟する団体が増加したためである。

岡崎議長：この場でどの団体のどの事業に補助をするか全てを審議するわけではないので、事業内の精査は事務局にお願いすることになるだろう。どの団体も市にとって大切な団体ばかりなので、必要な補助金である。ぜひ有効に活用されるよう願っている。

スポーツ協会への配分額は見直されたとのことだが、事業補助という配分になった場合、スポーツ協会から下部団体へ補助金を分配する方法でも問題ないか。令和6年度からは、計画している事業に対して必要な分だけを補助する形に変わってきているとのことで、事業として見直す、すなわち事業を精査することで、実態の評価や事業評価が必要となるだろう。その作業は事務局で既に始めていると感じていたがどうか。次年度を目指して行うとなると、相当な時間がかかるものと思われる。

事務局：ヒアリングなどは既に実施しているが、具体的な動きはこれからだと考えている。

木野委員：スポーツ協会に関しては、一昨年度から分配方法を変えて実施している。地域貢献に対する取り組みや市民大会の開催などをポイント制にし、それを満たした場合は補助金の配分が増えるような仕組みとしている。小中学生などの裾野拡大や競技人口増加の取り組みを行っている団体は、評価点を高くし補助金が増額されている。これを始めた令和4年は大変だったが、今年度はスムーズに実施できた。

岡崎議長：スポーツ協会はポイント制のような評価方法を採用しており、これが一つのモデルケースとして、今後、文化団体も含めた補助金の形にしていくということだろう。基本的な評価軸は、市民に対してどれだけ実質的なメリットがあるかということになるのだろうか。

スポーツであれば比較的基準を一本化しやすいと思うが、PTAや地域連絡協議会などは評価が難しい。そのため、より公平で民主的な行政運営となるよう、明確な基準を定めなければならない。その基準は今後どのように決まっていくのか。社会教育委員会議の場で、皆で決めるのが良いのか。同じ物差しで基準を作るのは非常に難しい気もする。

富山先生：私は、基準を作るためのヒアリングを始めたと理解していたが、そのような状況か。

事務局：まずは団体の活動内容の精査まで至っていなかった部分があるため、昨年1年間かけてヒアリングを進め、実態把握に努めてきた。今後、評価シートや評価ポイントなどの整理が必要だと考えている。

岡崎議長：来年度は、多少違った形で報告してもらえることを期待している。

報告

①社会教育委員会議等令和6年度実施報告

《議事進行》

- ・事務局より社会教育委員会議等令和6年度実施報告。

《主な意見等の内容》

岡崎委員：昨年度答申した池上曾根弥生学習館の指定管理についての進捗はどのようなになっているのか。

事務局：大阪府、和泉市、泉大津市の三者で、R8 から同じ事業者指定管理させるということで事務調整を進めていたが、和泉市が整備の遅れから同時には難しいということとなり、大阪府と泉大津市の2 者で調整を進めているところである。

②社会教育委員会議等令和7年度実施予定

《議事進行》

- ・事務局より社会教育委員会議等令和7年度実施予定について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

③ 社会教育事業の概要

《議事進行》

- ・事務局より社会教育事業の概要について説明。

《主な意見等の内容》

岡崎議長：泉大津市のように大学の教員が、社会教育教育委員として長く関わっているのは結構珍しいケースかなと思う。私たちが参加するようになって10 年以上経過している。いろんな関わりの中で、当然時代の変化があって、地域社会も変わっていくなかで、我々の関わりも当然、毎年、少しずつ、発展させていってるところである。

富山委員：今年度から、文化とスポーツを担当する2 課が生涯学習課として一つの課になったということであるので、それを生かすためには文化的な活動と、スポーツ活動が一体になって運営する連携事業ができればよいと思う。

井上委員：桃山学院大学は、学部が増えた影響で、これまで歴史展示を行っていたところに展示ができなくなったしまったので、本来やるはずだったことができない状態になっている。しかし私としては連携した活動はやっていくべきだと思っているし、人を作ってちゃんと人材供給していくことが、大学の大きな役割としてますます大きくなっていくだろうと思うので、地域に人材を供給するという大学の1つの役目を果たしていくという意味でも泉大津市との関わりを大切に、事業を一生懸命やっていきたい。

楠本委員：先日、図書館で開催されたウィキペディアタウンの講座に参加した。市民が自らデータを作成し公開する点が非常に興味深かった。また、和歌山大学と連携して実施するキャンプ事業についてであるが、現在、地域の子ども会が減少しており、野外活動の機会が失われている。社会教育としてこのような活動を推進することは良いことであると考えている。

杉山委員：質問が2点ある。1点目は、生涯学習推進系の事業に関わることだが、ブンカミーティングと文化祭実行委員会を毎月市民と集まって準備を進めているとのことだが、ワークショップや打ち合わせの会場はどこか。
2点目は、学びのキャンパスの創設事業において、地域交流ゾーン等の活用促進について、今年度の動きやスケジュールはどうなっているか。

事務局：1点目のブンカミーティングの開催場所については、市役所の会議室などで実施している。2点目の学びのキャンパス創設事業のスケジュールについては、現在、小津中学校で電子錠を設置し、防犯・管理体制を整えているところである。電子錠が導入できれば、順次、事業を進めていく予定だ。他の学校についても、学校と連携して調整している。しかし、平日の利用を進めることが難しく、休日、土日の利用に限定し、利用団体を絞って利用促進を進められるよう調整している。

杉山委員：ブンカミーティングという取り組みは素晴らしい。まち全体が社会教育活動のフィールドとなれば素晴らしい取り組みだと考えている。市民が主体となって行政と協働しながら作り上げていくこのプロセス自体が、本当に重要な社会教育活動だと感じた。

令和7年度と8年度の2年間で策定する「生涯学習推進計画」と「文化芸術振興計画」において、まち全体を学びのキャンパスにしていくプロジェクトをぜひさらに推進してほしい。また、この策定プロセスにおいて、泉大津市として住民の参加・参画を非常に重視していることも、素晴らしい取り組みだと評価している。

木野先生：スポーツ競技大会出場奨励金について、非常に多くの方が奨励金の申請をしている。これは非常に良いことである。各競技のトップレベルの選手は非常に伸びているが、裾野の拡大、すなわち競技人口を増やしていく必要があると私自身実感している。申請者が年々増えているのはなぜだと考えているか。選手のレベルが上がったからか、この奨励金の存在が知られるようになったからか。

事務局：徐々に、この制度自体が市民に周知されてきたことが増加の要因だと考えている。また、全国大会に出場する人が増え、レベルが上がってきたことも要因の一つである。

木野委員：この制度はいつから始まったのか。

事務局：令和2年から始まった。コロナ禍でなかなか周知が進まなかったが、徐々に浸透していき、増加傾向にあると感じている。

④社会教育事業の予算について

《議事進行》

事務局より社会教育事業の予算について説明。

《主な意見等の内容》

富山委員：スポーツ施設管理運営事業について、指定管理業務委託料が増額となったとの説明があったが、令和7年度から指定管理事業者が変更になったことで予算が増額になったものか。

事務局：指定管理事業者が変更になったことが原因ではなく、近年の人件費の高騰を反映させたことで委託料が増額になったものである。

その他

①社会境域関係組織及び担当者一覧について

《議事進行》

事務局より社会境域関係組織及び担当者一覧について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

【自由意見】

教 育 長：現在、本市の社会教育施設について考えていけない時期にきている。施設の耐震や、市民の安全安心を第一に考えたときに、新しい施設がいるのではないか。しかし（仮称）生涯学習センターというものを作っても、

また、特定の団体だけが使用する施設にならないか、広く市民が活用する施設にするにはどのようにすべきか。本当にいろんなことを考えないといけない状況に今立たされている。

ですから、社会教育委員のみなさまに、様々な問題提起を出して、みなさんのご意見をいただく場面が今後、多々増えてくると思っている。

本当にない忌憚のない意見を言っていただいて、本市の事業が、何か、先進的なものになればいいなと思っておりますのでぜひ協力をお願いしたい。

岡崎議長：社会教育施設の問題としてあるのは、特定の利用者が施設の利用について既得権益化していることである。ずーっと、もう本当に私が公民館の利用者にヒアリングした 15 年前からあって、多分その始まりはもっとはるか昔だろう。いわゆる公共教育施設は既存の団体に枠で取られてしまって、後から新たに、何か時代とともに、こういうことをやりたいといってもできない。これは時間の流れとともに合わなくなってきている。

だから、できるだけ我々も、頭をフレッシュにして世の中が一体どう動いているのかっていうことにアンテナを張って、本当にフェアな形で、何か泉大津市に貢献できればなというふう感じている。ぜひ委員の皆さんも、頭をフレッシュにさせていただいて、ご協力よろしくお願ひいたします。

終了 午後3時